

# 第1回 函館市持続可能な町会運営に関する検討委員会 議事録

○開催日時：令和4年7月15日（金）10：00～11：40

○開催場所：函館市役所8階第2会議室

○出席委員：奥平委員長，菊池副委員長，石郷岡委員，上野山委員，酒本委員，  
中村(馨)委員，中村(和)委員，丸藤委員（計8名）

○欠席委員：なし

○傍聴：傍聴者2名，報道機関2社

○事務局：佐藤市民部長，兵吾市民・男女共同参画課長，小林主査，奥ヶ谷主査

.....  
次 第

1 開 会

2 市民部長挨拶

3 委員紹介

4 議 事

- (1) 委員長および副委員長の選任について
- (2) 検討委員会の今後の進め方について
- (3) 現状および町会の維持に関わる課題について
- (4) 検討事項について

5 その他

6 閉 会

## 1 開会

(事務局 奥ヶ谷主査)

定刻となったので、第1回函館市持続可能な町会運営に関する検討委員会を開催する。この会議は、原則公開で行っている。また、本日の会議は、11時45分までには終了したいので、議事の進行に協力をお願いします。

本日の会議の出席数は、委員8名中8名の出席により、函館市持続可能な町会運営に関する検討委員会設置要綱第6条の規定により本委員会が成立していることを報告する。

開会にあたり、市民部長から挨拶を申し上げる。

## 2 市民部長挨拶

このたびは、大変お忙しい中、「函館市持続可能な町会運営に関する検討委員会」の委員を引き受けていただき感謝する。

本市では、令和3年3月に策定した「町会活性化に向けた基本的な方向性」に基づき、若い世代の加入促進を目指した町会活動のPR事業や、町会の主体的な取組を支援する町会活性化モデル事業などを、町会はもとより、市と町会連合会の3者が力を合わせて、また、いろいろな主体を巻き込みながら、地域コミュニティの活性化を推進することに取り組んでいるところである。

最近も報道などで、各町会において様々な主体との連携により、新たな取組が生まれている一方で、町会における担い手の不足、高齢化、固定化そういったことも、課題が深刻化しているところである。

このような現状を踏まえ、町会活性化のベクトルは、引き続き促進しつつ、町会運営については、なかなか内発的に改革あるいは転換するのが難しいという現状もあることから、持続可能な町会の運営に町会が取り組み、それを支援するために、どのような取り組みが必要かを検討するため、この検討委員会を設置することとしたところである。

委員の皆様には、それぞれの専門的な観点から、あるいはいろいろな経験を基にした忌憚のないご意見をいただくこと、そのことによって活発な議論になることを心から期待している。

全5回を予定しているので、よろしくお願ひしたい。

## 3 委員紹介

## 4 議 事

(1) 委員長および副委員長の選任について

(事務局 奥ヶ谷主査)

本委員会については、設置要綱第6条第2項の規定に基づき、委員長が委員会の進行を務めることとなるが、現在、委員長が決定していないので、委員長が決まるまでの間、市民部長により進行する。

(佐藤市民部長)

委員長が決定するまでの間、進行を務める。議事（1）委員長および副委員長の選任について、設置要綱第5条第2項では、委員の互選となっているが、どなたか候補者の推薦があるか。

本日、皆様は初対面の方も多いので、特に候補者の推薦がないようであれば、事務局から提案したいが、いかがか。

（委員）

－異議なし－

（事務局 兵吾市民・男女共同参画課長）

委員長候補者に、奥平委員を提案する。

（佐藤市民部長）

皆様、いかがか。

（委員）

－異議なし－

（佐藤市民部長）

委員長は奥平委員に決定する。

（事務局 奥ヶ谷主査）

奥平委員長、委員長席へ移動をお願いします。ここからは、奥平委員長に議事の進行をお願いします。

（奥平委員長）

これからの議事の進行に際し、皆様の協力をお願いします。次に、副委員長の選任に入る。先ほど、特に推薦がなかったことから、副委員長についても、事務局から提案いただきたいと思うが、いかがか。

（委員）

－異議なし－

（奥平委員長）

異議がないので、事務局から提案をお願いします。

（事務局 兵吾市民・男女共同参画課長）

副委員長候補に菊池委員を提案する。

（奥平委員長）

事務局から、菊池委員ということで提案があったが、いかがか。

（委員）

－異議なし－

（奥平委員長）

副委員長に、菊池委員を選出することを決定する。菊池委員は、委員長席へ移動をお願いします。

（2）検討委員会の今後の進め方について

（奥平委員長）

議事（２）検討委員会の今後の進め方について、事務局から説明をお願いします。

（事務局 兵吾市民・男女共同参画課長）

－資料３に基づき説明－

（奥平委員長）

説明に対し、質問はあるか。

では、今後の議論の進捗状況を鑑みながら、この先、基本的にこの考え方で進めていく。

### （３）現状および町会の維持に関わる課題について

（奥平委員長）

次に、議事（３）現状および町会の維持に関わる課題について、事務局から説明をお願いします。

（事務局 兵吾市民・男女共同参画課長）

－資料４に基づき説明－

（奥平委員長）

本委員会で検討を進めるにあたって、まず、町会の現状や課題の情報提供があったが、質問などあるか。

### （４）検討事項について

（奥平委員長）

次に、議事（４）検討事項について、事務局から説明をお願いします。

（事務局 兵吾市民・男女共同参画課長）

先ほど説明したとおり、各町会は様々多くの課題を抱えており、町会活性化の方向性に基づく取組を継続して実施することはもちろんのこと、持続可能な町会の実現に向けて、一歩踏み込んだ取組の検討が必要と考えている。

ただし、持続可能な町会の実現と言っても、非常に幅広い内容となっているので、意見を出しても、散漫になってしまうと考えるので、資料５で検討事項を一定程度、大きく分類し、そのポイントについて、まず、検討をお願いしたい。

今回は、手元の検討事項シートにあるように、「持続可能な町会運営の方法」、「運営に対する支援」、「その他」と大きく３つに分類して、さらに、そのなかで、市で現在、想定しているものをあらかじめ挙げている。

本日は、この検討シートの分類をもとに、実施内容や手法、問題点、解決方法などを検討していただきたい。

（奥平委員長）

事務局から説明があったが、非常に大きなテーマで話すことになるので、１回目からなかなか議論が進まないのではないかとということで、このような検討事項シートを用いたわけだが、今日は、第１回ということで、一番上の持続可能な町会運営の方法について、重点的に話し合えればと思うが、そのような方向性でいいか。

それでは、持続可能な町会運営の方法について、想定項目として挙げた事項について、

事務局から説明をお願いします。

**(事務局 兵吾市民・男女共同参画課長)**

資料「町会活性化に向けた基本的な方向性」のなかには、4つの町会活性化への方向性というものを定めている。

そのひとつに、町会の負担軽減も掲げており、そのなかでも実際の活動内容や運営方法の見直しというものも示しているところだが、本検討委員会では、「持続可能な町会運営の方法」というところで、より踏み込んで、大きく「業務のスリム化・方法の見直し」「組織のスリム化」「近隣町会との合併」と項目の設定をしたところである。

一つ目の「業務のスリム化・方法の見直し」だが、業務のスリム化については、現在行っている活動や事務について、一度洗い出しをして、見える化をしながら、実際に無駄なものがないか、今の時代、ニーズに合っていないものがないかなどを検証しながら、内容の縮小や廃止といったものを行っていくものになる。

方法の見直しについては、例えば、従来の紙で印刷したものを回覧するというのも、まだ多いと考えているが、こういったものを例えば、SNSを活用することで、印刷の手間や仕分け作業の手間などが、かなり省略されるのではないかと考えている。

二つ目として「組織のスリム化」だが、町会には、専門部、事業部ということで様々な組織、例えば、総務部、経理部、防犯部、交通部、防災部、街灯部、環境部など多種多様な組織がある。

そして、各専門部では、責任者として部長や副部長を配置して事業を進めるが、役員の担い手不足の中、部長や副部長のなり手不足に大変苦慮していると聞いている。結果、同じ役員が複数の部を兼務するというような状況もある。

このしたことから、例えば、先ほど話した業務のスリム化や方法の見直しを行いながら、複数の部を統合していくなども考えられる。そうすると、役員の配置すべき人数も減ってくるだろうと考えているところである。

最後に3つ目「近隣町会との合併」だが、様々な見直しを行っても、規模が小さくなってきたり、高齢化が著しいということで、一つの町会で維持していくことが、なかなか難しい状況になってくると考えており、そういう声も聞こえてきているところである。そうなると、近隣町会との合併も、選択肢の一つとして考えられる。

一方で、これらの方法については、昨年度のモデル事業でも取り組んだところだが、町会内部からは実行がしにくいこと、やりたいと思っても実際どうやっていいかわからないこと、特に合併については、住んでいる人にとって一生に関わる大きな取組になるので、どうやって地域住民の合意を取っていくのかなどの手順や、町会館など財産も持っているものでどのように整理していくのかなど、様々わからないことだらけであることなどにより、見直そうと思っても壁になっているものと考えている。

そこで、今回の検討委員会においては、項目を設けているが、有効と思われる実施手法、町会がこれらの取組を進めるうえでの問題点および課題、その解決方法などについて、検討をお願いします。

また、市で3つ想定したが、それ以外でも有効な手法等があれば、併せて検討をお願いします。

する。

**(奥平委員長)**

それでは、持続可能な町会運営の方法について、議論に入る。

事務局からは、大きく3つの方法とその内容、そして、問題点について、説明があった。

委員の皆様からも、有効と思われる具体的な手法、または、現在携わっている業務のなかで、こういうところが問題かもしれない、これを解決すればいいのではないかなど、おそらくあると思う。そういったものを明らかにすることで、次の議論に進めていければと思う。

順番に一人ずつ話を伺っていく。まずは、町会連合会から2人見えているので、中村(馨)委員いかがか。

**(中村(馨)委員)**

業務のスリム化ができれば、組織もスリム化ができると思う。

ただ、町会内部からそれをするのは、今、役員を務めている町会長などのプライドみたいなものがあり、自分の代で、いろんな事業を廃止してしまったことに対する嫌悪感が出る可能性が高いと思う。そこをどうするか。

実際に昨年度、市と町会連合会が協働して、モデル事業を行ったが、市や町連の手助け、ファシリテートがあって上手くいったところがあるので、そういったところを問題を抱えている多くの町会に、対応できるのかといった不安がある。

**(上野山委員)**

町会には、色んな部門部署があって、その部署が結局同じようなことを行っている。福祉部のことを行おうと思うと、老人の福祉の見守り、交流、そして子どもたちも一緒にとなっていて、業務を合わせてみよう、役員を少なくしようと思っても、なかなかそれがうまくいかない。

役員のなり手不足でスリム化して一緒にしたとしても、役員が増えないと、一人の負担が増える。自分の話をすると、主人が町会長で、同じく私もいろいろな部長職を務めている。部長職3つと、区を11に分けているが、区長を3つこなしている。私が務めている役職は、総務部と会計部と育成部長で、ほぼ一人で町会業務をこなしている状態になっている。ここで、防犯と育成部、福祉部を併せようというのは、スリムにして部署を減らすということだと思うが、誰かが兼任して、結局、一人に対して負担が増えていく。そういうところが、難しいと思う。

色んな部署が一緒になって、役員が少なくなって良かったとなるのだろうが、やはり負担は大きいので、あまり部署を変えてどうのというよりは、人が増えていけばいいなと思っている。

ただ、重複して行っていることは多いと思うので、そういうことは見直しをして、ここここは一緒にやろうということはあると思うが、今のところ、そういうことを洗い出すことも手が回らない状況である。

また、町会は閉鎖的で何をやっているかわからないと思っている人もいるので、なるべく紙媒体だけではなくSNSを活用して見てもらうようにしている。

また、本当に回覧板は必要なのか、町会だよりは本当に欲しいのか、フェイスブックやツイッターで見られるので配らなくてもいいのか、高齢の方はそういうのができないので紙でほしいとか、そういうことも時間がかかるかもしれないが、アンケートなど取らないといけないと思っているが、そこまでやるのも難しい状態になっている。

近隣町会との合併は、私の町会は離れているところなので、隣の町会と仲良くはするが、合併までとなると範囲も広くなり大変だなと考えてしまう。

#### (奥平委員長)

では、次に全国の町会の現状に詳しい酒本委員にお願いします。

#### (酒本委員)

2020年に函館市で話をしてから、横浜、埼玉県などいろいろな所に呼ばれて町内会の話をしたが、コロナがちょうど明けたころから、かなり状況が変わったと思っている。

みなさん地域コミュニティでの課題がすごく出てきて、それを地域コミュニティで解決しなければいけないと考えている。その時の中心が、本来であれば函館市で言う町会になるが、そこの担い手が不足して組織力が低下している。だから、もう町会だけでは対応できないと考えているところが、多くなっていると感じている。

では、どうするかというと、例えば、横浜市だと町会は最低限のこと、スリム化して最低限のことでやっていくと。それで多様な地域の団体と、例えば子どものイベントをやりましょうとか、子育てサロンをやりましょうとか、ニーズに合った活動をコーディネートしていくことに役割を変えていく。

そのことによって、その町は、その地域コミュニティは、子どものためのいろんなイベントをやっているし、あそこいいよねというふうになり、空き家ができると、そこにすぐ子育て世代が入ってくる。周り比べると地価が上昇しているというような地域コミュニティがある。

というふうに考えると、町会というのは、地域コミュニティの担い手、運営組織だが、町会の持続的な運営ではなくて、地域コミュニティの持続的な運営のために町会がどうあるべきかということを考えなければいけないのかなと少し思う。

地域コミュニティの価値を高めるために、それぞれの町会で、状況が違うと思うので、それに応じた運営をしていかなければいけない。

当然、今言ったように、スリム化して最低限のやれることをやりながら、他の人にやってもらうということを考えていかないと、特に函館市は50%近いので、これは結構厳しいなと思う。

これが70、80だと町内会、町会が中心になって、地域コミュニティの活性化ということができると思うが、全国を見ていくと50%くらい、ちょうどその境目でコーディネーターとしての町会の方に少し意識を変えていかれてはいいのかなと思う。

そのためにまずはスリム化して、できないことニーズがあってもできないことはどうするかというような考え方で、運営をしていかざるをえないかなと少し感じている。

その時の業務のスリム化は、やはり住んでいる方の会員のニーズをとらえていかないといけないと思う。

町会は、1940年代にできていて、80年90年そのままである。住民の方のアンケートにも出ていたが、踏襲されてやってきている。ということは、マーケティング調査を一度も行わず運営されている組織と考えることができるので、やはり住んでいる方のニーズがどこにあるかというのを考えて、ある程度把握した上で業務のスリム化をして、それで例えば、子育て世代の所には、今の町会役員では対応できないけど、あの若い人達だったらできるだろうとか、そういったネットワークとのコーディネートというふうにし少し考えていってもいいのかなと思う。

それから、そうするとスリム化して合併しようというのが一つ出てくると思うが、札幌市でいくつかその話になった時、絶対隣とはなりたくない、別れたのだからもうだめだ、世代が2世代位変わらないと無理だという話を伺った。

やはり分かれた時のいろいろな状況を知っている方が元気であると、なかなか合併は難しいので、両方のニーズがあって、やらなければいけないことがあれば、連携ぐらいが現実的などころではないかと思う。

#### (奥平委員長)

地域コミュニティを支えるために町会があるという視点、町会があるから地域コミュニティがあると逆の視点から話をいただいたと思う。次に、町会活性化に向けた基本的な方向性の会議を主催した菊池委員、ご発言をお願いします。

#### (菊池副委員長)

業務のスリム化や組織のスリム化は、以前の会議のときにも出てきた案件だが、やはり函館に関して言えば、中央地区や西部地区と、例えば東部地区と同じように扱っているのかというような問題、資料4にもあるが、東部地区は加入率が75%を越えていて、なおかつ老年人口が50%近い状態である。

けれど、北部地区とかは加入率はだいぶ低い状態だが、若い世代がすごく多いということで、一括で同じようにスリム化や方法の見直しを行う必要はないかと思う。

函館は元々合併しているところもあり、いろんな地域に対して特徴があると思うので、まずそこを同じようにするのではなくて、スリム化・方法の見直しというのもある程度、地域性を踏まえて段階的というか地域的に進めていったほうがいいのではないかと思う。

組織のスリム化も、スリム化する必要がある地域と、逆に手厚くしなければいけない地域があると思うので、一括でスリム化が必要だというのは、別の話ではないかと思うので、全体的に函館はこうした方がいいという話を進めても結局、ぼやっとした状態が続くだけかと思う。

地域ごとにアプローチしていくか、もしくは、全体的なところを検討したうえで、地域



的なアプローチをしていくか、少し感じたところである。

(奥平委員長)

地域性を重視したスリム化、段階的にスリム化するという提案、発言かと思う。次に、石郷岡委員、合併等もあるので、弁護士として発言をお願いします。

(石郷岡委員)

今、函館にある町会は、従前の権利能力なき社団としての町会が続いているのか、それとも函館市の認可を受けている地縁団体、どちらか。

(事務局 兵吾市民・男女共同参画課長)

両方ある。

(石郷岡委員)

どちらも存在しているということだが、内容的には、そんなに変わらないのだが、仮に合併や現在の組織のエリアを再編するにあたっては、認可地縁団体であった場合には、地方自治法にも書いてあるとおり、組織している人の4分の3以上の賛成が必要など、方法は法律にも書いてあるので、方法自体はそんなに難しくないと思う。

ただ、実際に総会をどうやるのかというのは問題になってくるから、会議のスタート地点としては、法律問題としてどうかというよりも、実態が出てから検討すればいいのかなと思う。

また、弁護士の立場としては違うが、話を聞いて思ったことを発言する。

一つ一つの町会において、若い人が入ってこないから人数が少なくなって大変だというのもわかる。他方で、スリム化するよとか隣と合併するよとなった場合に、今の代でスリム化するのはプライドがあるとか、隣の地区と合併するのは嫌だとか、これは大変だから何とかしてほしいという気持ちと、プライドみたいなのは、明らかに矛盾していると思う。そういうところを解消しないといけないのかなと思う。

(奥平委員長)

次に、中村(和)委員をお願いします。

(中村(和)委員)

今回、私は、学校と地域をつなぐ地域コーディネーターということで活動しているところから、町会のみなさんにすごくお世話になっているので、ぜひ町会のあり方を変えていけるのであればということで参加した。みなさんと違い、あまり知識など持っていないが、私なりに感じているところを話す。

まずは、町会について、3年前に所属している町会から出ることになり、別な所に引っ越しをした。その時に、市の方から町会に入ってくださいという手紙がいろんなものと一

緒に来て、町会が高年齢化しているということを周りから聞いていたので、自分も世帯主になったということで町会に入った。

入った時に、町会は何をしているんだろうというところは、自分から入っていかねば、総会に出たりだとか、町会で企画している行事に参加しなければわからないというところは、自分自身の反省でもあるが、もう少し、町会が何をしているのかということが、具体的に分かれば、引越して新しく函館に来た方、函館市内で引っ越した方も町会に入ろうかと興味が持てるのかなと思う。

その時に町会だよりが月に1回来て、私としては楽しかったです。紙で班の人から回ってくるが、その時に「今日寒いよね」とかというやりとりもとても良かったし、たまたま私の入った町会は、きつねが出没する所だったが、そのプチ情報、えさをあげないでくださいとか、ごみを外に出しておくときつねが来ますよとか、ちょっとした情報が書いていて楽しく読ませていただいた。

町会に入って、役員をされている方の苦勞が、今日の話のを伺い見えてきたが、実はPTAでも役員のなり手がなくて困っているという同じような話があり、子育て世代の親が感じていることが、もしかすると、町会に入っても役員をやると大変だなというふうに繋がってしまうのかなと思った。

なぜPTAの話をするかと言うと、PTAに関することも少し手伝いをしており、その関係でいろんなPTAのなり手がなくて大変だという話を聞くことが多かったので、そういったところをどうすると、役員のなり手が増えるのかというところが、町会の役員の方にも、うまく生かせたらいいなと考えている。

あと、町会に入ると、子どものいろんな行事があるということも、若い世代の親に分かってもらえるといいのかなと思う。

クリスマスとか入学のお祝いとか遠足とか、小学生の子を持つと参加できて楽しいよと。そして、そこに子供と一緒に参加することで、いろんな世代の方との交流もできて、そういうメリットがありますよというの、もっと伝えていけたらいいと思う。私の子どもは大学生で、なかなか大学生が楽しめる行事がその町会にはなかったのが少し残念だなと思ったが、そういうことで、私が役に立てることは少ないかもしれないが、1つでも2つでも何か持ち込んで、いろいろ話したいと思う。

#### (奥平委員長)

学校と町会という考え方、PTAと似ているのではないかという話もあったが、私も感じたのが、ボランティアでやり続けることの限界が今見えてきているのかなと思う。

無償でやって、もうひとつは、家族構成と労働構造の変化で、昔は、お父さんが働きに行って、お母さんが家にいるような家が多かった。そういう場合だと、町会の役員も女性の方がよくやっていたと小さい頃の記憶があるが、今は女性の社会進出が進んで働き手になっているということは、逆にいうと町会に入って何かしたくてもやりにくいと、そういう状況が今増えてきているのかなと感じている。

次に、丸藤委員お願いします。

(丸藤委員)

いろいろな立場で、町会と関係というか、支援とかさせていただいているが、町会といったときに、地域に例えば、町会が全くなくなった10年、20年、30年先と考えると、そういう地域はあり得ないのかなと思う。なので、なんらかのかたちで、町会というかたちが残っているのが、やはり日々生活していくために、すごくいいことだというのはイメージできると思う。

では、その町会の業務は、昭和の時代と令和と一緒にいいのかと思うわけだが、昭和の時代であれば、人もたくさんいて、子どもたちもたくさんいて、子どもの行事に出てもたくさんいるわけだが、これからは、子どもが減ってきて、高齢者が増えてきて、さらに、その高齢者も一人暮らしの高齢者になっていく。

そうすると、当然、業務の中身も変わってくるわけだから、令和の発想にならないといけないし、町会というのは、おそらく地域づくりだと思う。

では、地域づくりとはなんだろうというと、やはり、地域に住んでいる人の命と暮らしを守っていくというのが大前提になっていて、町会がそれをしていく、地域づくりの先ほどコーディネーターの話が出たが、まさに、コーディネートやマネジメントリーダーみたいなものに徹して、例えば、子ども向けの行事をしたいのであれば、地域で子ども向けの行事をしたい人を集めて、任せてやらせよう。

そういうようなかたちにしていかないと、なんでもかんでも、町会が全部担うというのだと、結局、地域の課題は、どんどんどんどん細かく増えていくので、全部に対応しようと思うと、逆にスリム化できなくなる。

なので、そもそも町会の業務自体を、どういうふうに考えるかという発想の転換というのが必要になってくるのではないのかと思う。

その時に、繰り返しになるが、何もかもやるのではなくて、あくまでもコーディネート役など、軸になるということで、例えば、見守りとかは、地域包括支援センターもあるかもしれないし、今、生活支援コーディネーターというのもできているし、そういう人たちが地域とつながっていける。

また、実働部隊としては、北海道がアクティブシニア等活躍支援事業を立ち上げており、地域の元気なアクティブシニアの方々に活躍の場をつくらうということで、2年か3年くらい前から、一所懸命、研修会などを行い、そういう意識の高い高齢者を増やすなどしているの、そういう方を仲間に入れていく。

町会の行事とか、町会の役員とかではないのだが、あくまでも町会がコーディネートしたいいろんなものにつながって活動していく、そういうふうにしないと、町会自体もスリム化していけないし、業務もアップアップになってしまう。

逆に、町会が地域づくりに徹し、地域の人々の命と暮らしを守るんだということに徹していけば、持続可能になるし、地域の方々の何で町会があるのかということに対しての理解も進んでいく。

町会には入らないかもしれないけど、町会が企画したコーディネートしたマネジメント

した、その部分であれば協力できるみたいな、そういうかたちの地域というのができていくのではないかと考えている。

#### (奥平委員長)

令和の町会へ、地域づくりのマネジメントに特化するような、そういう存在に変わっていく必要があるのではないかとということだった。

確かに、昭和の町会と今の町会で何が違うのだというと、あまり変わらないような気がするところである。

昭和の町会の私の世代のイメージは、港まつりの盆踊りのイメージが非常に強かったのだが、子どもが減ってきて担い手が減ってきて、そういう行事ができなくなってくると、町会が何をしているか分からなくなる。

結果的には、時代の流れでスリム化していった部分だと思うのだが、そうすると、この先、何かはまたなくなっていくかもしれないということになると、本当に町会の存続の問題が出てくるのかなと思うので、この会議では、2回目以降になると思うが、スリム化するために、何を町会がやればいいのかということ、次の会議の議題にしていければと、みなさんの話を聞いて思ったところである。

一巡したので、ここからは、自由に発言をお願いします。

#### (上野山委員)

疑問に思っていることがあるが、市役所全体の方に聞きたいのだが、このなかで、町会に入っている方を把握しているか。今日いる方で、町会の役員をやったことがある人はいるのか。

会長、副会長、総務、会計、あとは各部で青少年育成部とか福祉部いわゆる部長職。環境部、交通部、防火防犯部そういう町会の役職をやっている方はいるのか。

#### (事務局 佐藤市民部長)

自分の把握している範囲の話だが、町会の役員をやっている方は、数名いる。また、市の職員でも、町会に入っていない方も残念ながら結構いる。

#### (上野山委員)

私の町会でもあるのだが、市に勤めている方のところに行き、次、班長ですと言うと、班長をやるなら町会をやめると言われることがある。こちらも任意でやっている町会の活動なので、やめないでくださいとか、何でやめるのですかとか言えないので強制できないので、お願いですと常に言わなければいけない。

まず、町会をどうにかしたいと皆さんが言うのなら、なぜ町会役員を経験してから言わないのかという気持ちはずっとある。みなさん、どうしようこうしようと言うのですが、実際やってみないとわからないことがあるのではないかと思います。

そのなかで、市役所の方たちは、市役所だけではありませんが、町会にも入っていない

て活性化しようというのは、無理な話ではないかと常に思っている。

それで、町会に住んでいる一般の市民たちが、ボランティアだからといって、いろんなことをやっているのだが、町会をどうにかしようと考えているのであれば、活動に参加してほしい。あと、町会が実際なくなった場合、市はどう思うのか。

**(事務局 佐藤市民部長)**

町会が現実になくなり、街路灯の維持団体になってしまったということも、数例ある。

住民福祉の向上というのは、やはり市民の方が、快適に安心してそこで暮らすということだと思う。

そういったなかで、町会の果たす役割というのは、非常に重要であって、なくてはならない存在だということは、方向性のなかでもうたっている。

実際に、地域コミュニティと町会が、実はニアイコールの概念で、いろんな取組が行われていることは否めないのも、そこは、今回のいろんなご意見の中で、地域コミュニティと町会というのは、もう少し違う考えでもいいのかなどと改めて思った。

市の職員の町会への加入、これについては、町会、町会連合会や議会からも言われていて、やれることはやっているところだが、さらに一歩進めて、今、何か違う取り組みができないかということ、市民部の中で検討している状況である。市の職員こそ中心になって、町会の活性化に取り組んでよという声があるのは、充分承知している。

**(奥平委員長)**

他にあるか。

**(石郷岡委員)**

丸藤委員の話のなかで、町会がなくなったら10年後20年後30年後どうなるかという話があったが、例えば、仮に町会がなくなったら10年後20年後どうなると思うか。

そこに明確な回答が無いということは、そもそもなければということで話しをすると、町会の基本方針として、そこまで必要ないのではないのかからスタートするべきなのか、それともやはり必要だから、今の状態を維持するために、なんとか考えようという発想になるのか変わってくると思う。

**(丸藤委員)**

町会がなくなったら、今、地域の方が、そんなに目には見えてはいないのだが、上野山委員が活動しているように、実は目に見えないところで、すごい地域のためになることをたくさんしていると思う。

街路灯、ごみ拾い、登下校の見守りなど、そういうものは、今、実際には、町会の方が行っているわけである。

それが全部なくなったら、たぶん治安も悪くなるだろうし、ゴミだらけになるし、街路灯が切れていても、そのまま真っ暗で付け替えてくれる人がいなくなるかもしれない

し、そうなる治安がますます悪くなるし、自分たちの地域は自分たちで、今、加入率が少ないとか役員のなり手がいないとは言いながらも、それでも地域の中のごく一部の方、地域のためにがんばっているわけだが、それすらいなくなってしまうたら、本当に地域が自分たちの力で地域をつくる努力していくんだという人たちがゼロになるわけなので、好き勝手というか、どんどん地域が悪くなるわけなので、命と暮らしが全く守れない状態で、本当に、繰返しになるが、治安が悪くなり生活しずらくなり、本当に住みにくい地域になっていくのではないかと思う。

縁の下の力持ちの縁の下がいなくなるわけである。それを他の人たちがボランティアベースでやるかという、自分の家の前の雪かきですら、満足にしない人たちが増えてきているご時世で、そんなことをやれるようにならないと思う。そうすると、全く自分のことしか考えない人たちだけの地域になるのではと思う。

### (酒本委員)

今の話に付け加えると、札幌市のなかで、担い手がいないので町内会が解散してしまった事例がいくつかある。

そうすると、何が起きるかという、まず札幌市の仕組みは、除雪・排雪を町内会と札幌市が両方で負担しているの、冬になると町内会が必要になり、解散した町内会もこれはまずいなとなり、任意団体で除雪排雪費を集める団体をつくりましようとなる。

それから、次に起きてくるのが、やはりゴミステーション、ゴミの集積場である。これの運営管理をどうしようということで、その任意団体がゴミステーションの管理をしようとなる。

そのうち、子どもたちが夏に元気に外で遊んでいるのを目撃して、公園で子どもたちのために何かやろうとなつて、バーベキューでもやろうとなる。そして、バーベキューをやり始めると、ふと気が付く。これは、町内会と変わらないと。ということが、本当にあった。

それで町内会に戻っていくということもあるし、新しい住宅地の中で、ゴミステーションとか、丸藤委員が発言した最低限の生活基盤を確保していくのに、町内会をつくろうという方が新しい住宅地でも多い。

これは、前にも話したが、ハウスメーカーが新しい住宅地をつくるときに、住宅地のコンセプトを考えて、コミュニティを大事にしたい住宅地にしたいとなつたら、やはりハウスメーカーが一所懸命、町内会をつくる。

ある大手ハウスメーカーは、職員を5年間くらい住ませ、町内会が安定するまでそこに住ませる大手ハウスメーカーがあるくらいで、それが地域の財産、価値を高めるということをハウスメーカーは知っていて、そういったことを考えると、町内会、町会がなくなれば、きっとそれに代わる組織が必要になると思う。

それからもうひとつ、私は、北大でコミュニティデザインを教えているが、若い方、50人位の学生に町内会・町会を知っている人と聞いたら5人位しかいない。

しかし、そういう若い人たちと地域コミュニティをどうしたらいいかというワークショ

ップをやると、やはり最初は、町会・町内会は、閉鎖的だし嫌なイメージとなってくるのだが、地域コミュニティの課題がいろいろ出てきて、解決する組織が必要というふうになると、軸になるところが必要となると、やはり町内会だと、ただし、今の町内会ではないとはっきり言う。

だから、地域コミュニティを運営するためには、町会組織がやはり必要で、若い方もそれはすごく認識している。

特に、コロナのあとのリモートになったときに、孤独だという言葉が圧倒的に若い世代からすごく出てきていて、だからコミュニティが大事だということだった。

それからヤングケアラーの問題。新たな地域コミュニティで解決しなければならない問題が、若い人たちの中ですごく浮かんできている。

それを解決するためには、やはり軸となる町会なりが必要ではないかというのは、最近ワークショップをやったなかで話が出てきたので、やはりそう考えると、町会の役割というのは、戦前の回して下さい回覧板時代から、そして人口が増える昭和の時代、そして、今、令和になったときに大きく変わらないと、持続可能とは言えないのではないかと、最近、若い人たちとワークショップをやって思ったことである。

無くなると新たな町会ができるという札幌市の例である。

ちなみに、私は、町会の総務部長を務めている。

#### (奥平委員長)

町会がもしなくなっても、また町会みたいなものが生まれてくるということは、町会というのは、やはり必要なものなのだなと強く感じているところである。

札幌市の場合、除雪やゴミステーションの問題があるのかと思うが、函館市の場合そういうのは、あるのか。たぶん、街路灯か。

#### (事務局 佐藤市民部長)

市と密接な関係にあるのは、やはり街路灯の維持だと思う。

除雪に関して、市道は、細いところも含めて、ほぼ、市の土木部で発注して行っているのが現状である。その代わり、少し離れたところになると、まだ来ないのかと土木部の方に電話が入り、多いときは一日中電話が繋がらないというような状況である。

特に本州方面では、ゴミステーションの管理を町会に行わせているところがあり、町会に入るのは、ゴミステーションを利用するためみたいなどころもあるが、函館は、個別、家の前まで行きゴミを収集するというので、非常に住民サービスが手厚いのかと思う。

このため、なおさら町会・自治会が、何を仕切っているのかが見えにくいというのは、現状としてあると思う。

#### (奥平委員長)

町会の決まった業務というのは、街路灯だけなのかと感じられる。

(上野山委員)

実際、困るのは、街路灯だと思う。

(奥平委員長)

最後まで残るのは、街路灯ということになると、差し当たってどうするというのは、次の問題になるのかと思う。これは、今日、結論が出るものではないと思うが、ただ、問題がいろいろと見えてきたと思うが、ほかに何かあるか。

(中村(馨)委員)

町会連合会の事務局長を務めているが、市民部長が言ったとおり、札幌とか他の自治体と違って、函館は、町会の役割そのものが見えづらいところが確かにあると思う。

ただし、例えば、私が住んでいる所は結構高台にあるので、雪の問題があると、市の道路はいいのだが、私道になるとまったく手つかずである。

ところが、函館に限らず高齢化が進んでいる地域で、自分たちで除排雪ができるかというところできない。私は、役員ではなくて、班長をやっていたが、班長として町会費を集めに行ったときに、入っていないところの人から声をかけられて、もし、札幌のように町会が除排雪をやるなら私たちも入りますと言っており、やはり地域住民は、目に見えるものがないと町会には入らないと感じたところである。

市の職員の方も残念ながら入っていないけども、市の職員も地域住民である。けれど、町会の役員は、住民に命を捧げるのが、市の職員だみたいなものがあると思っている。だから、市の職員の加入率が上がらないとおかしいという。

しかし、そういうことで、町会に入ることの意義やメリットが目に見えない。

ただし、これは、市のやり方として、個別のゴミ収集をやっていて、本当にサービスが行き届いていることの弊害が生じているわけである。

たとえば、個別収集でない場合は、町会に入ったら何かいいことがあるのかと言われたら、ゴミ収集が楽ですよとなる。なぜかという、ゴミステーションにゴミを捨てに行くだけですみますよとなる。入ってなかったら、日乃出町まで行かないと駄目ですよと言えるわけである。

自分は、以前、埼玉県の川口という所に住んでいたが、そこはゴミステーション式で町会に入らなければだめであった。だから、函館で、先ほど50%を切ったらという話もあったが、逆に50%あるのがすごいと思う面もある。

問題点は、そういったところにもあるのかと思う。

しかし、酒本委員が言うように、なくなったら、またできてしまうのも町会の実態なので、これをどうにか多くの方に知ってもらうこと。これが、前の活性化検討会議でも話題にはなったのだが、そんなところが見えてくると、少しは、先ほど石郷岡委員も言ったように町会がなくなったらどうなるのだろうと、多くの町会はなくなっていないので実感はないのだが、本当に、また出来上がるぐらいのものだと思う。



除雪の問題だけでも、もしそれが解決できるのであれば、組織の力で解決できるなら入りますよって言われたので、そういうことなのだと思う。

そこをなんとか、若い人とか市の職員の独身の人にも理解してもらおうと有難いと思う。

#### (丸藤委員)

私は、まちづくりセンターのセンター長なので、いろんなNPOと付き合いがある。

NPOみたいなものは、若い人がどんどん参加しているし、確かに世代交代で困っていたり、事業継承で困っていたりすることはあるのだが、しかし、若い人が中心になって、地域づくりとかそういう団体は、どんどん出来てきている。

例えば、胆振東部地震みたいな大きな災害があったときは、人が集まるし、そうではなくても、自然がどうか課題があれば、それを解決したがる人たちというのは、どんな世代でもいつの時代でも結構いて、それなりに活動している。

だから、町会も、そういう地域を、実際本当にどういう課題をどういうふうに解決しているかみたいなのが、先ほど地域ごとというワードが副委員長からも出ていたが、きちんと明確になって、自分たちだったらどういうことができるみたいなのがあれば、いくらでも参加できる仕組みに促す方法はあるかと思う。

ただ、そういう方々が面倒くさがっているのは、自分はその活動はしたいけど、組織としての町会運営みたいなことをやって、自分が本来したいことと違うことまでやらされたら嫌だというのがあって、その整理整頓が上手くいけば、先ほどのコーディネートという話になってくるのだが、上手くいくのではないかと思う。

やりたい潜在的に地域を良くしたい人たちは、たくさんいると思うので、それをうまく利用することで、スリム化を目指せばいいかと常々思っている。

#### (奥平委員長)

やりたい人がいる。潜在的な町会役員予備軍みたいな方がいるということが、たぶん皆さん、なんとなくわかっているのかなと思う。

そういう人たちをどう取り込んでいくか。また、そういう人たちを取り込んでいくために、町会はどのようなメリットがあるか示せるのかどうかなのかと感じるところである。

他の市や町と比べると、函館は町会に入るメリットが低い気がする。街路灯だけかという話になると、街路灯はいらないという人たちも出てきて、そうになると、その部分をどうするかとなる。

逆に言うと、ゴミステーションというのは、函館市の財政状況からいうとそっちの方がいいのではないのかという気もしないでもない。もしかすると、財政再建につながるのではないかと話を聞きながら思っていた。

#### (菊池副委員長)

前の町会活性化検討会議でも、今の内容は出てきた内容で、やはりメリット・デメリットが明確化されていないと、特に若い人たちというのは、メリット・デメリット、町会に

入ることによって何か得られるものがないと、なかなか手が出にくいと思う。

特に函館は、地域によってはやっているのだが、新規参入者というか、新しく入られる方に、特に見えにくいという話が出たところである。

いろんな地域の方、町会の方も会議に参加しており、東部地区の方だと、例えば、地区の行事とかで、写真を撮ってそれを回すことで、地域の交流を図っていると。だから高齢者というか、地域に長く住まわれている方にとってのメリットは結構ある。また、例えば高齢者に関して、見守りをされていたりというような町会もあるので、そういうところのメリットというのは、高齢者にとってはあるのではないかと思ったところである。

しかし、若い人のメリットというのは難しいというのを感じていて、先ほど地域コーディネーターの方も話していたが、学校と地域の関係性というのも大事なのではないかという話も結構上がっていたが、なかなかそこが、地域によって、深いところと、そうでないところがあるということであった。

地域性によるところももちろんあるのだが、できれば共通するメリット・デメリットみたいなものが、実際、ゴミステーションを変えることはできないので、そこをどうにか出したいと思うところである。

しかし、やりたくない仕事もしなければいけないかもしれない。いわゆる負担感。この負担感をどう軽減するか、もしくは、負担感があまりないというふうにしなさいといけない。それがスリム化になると思うのだが、ここも見直さなければいけない。

棚卸しをする必要があるというの、活性化検討会議で話をしたが、その棚卸しというのが実際どこまでされているか、その後、どうなったか。

我々がこうした方がいいと話をするのも大事だと思うのだが、各町会で危機感というか、棚卸しをするなり何か必要なことがあってそれは残さないといけないなど、町会によってあったりなかったりすると思うので、そういう話し合いは実際どれくらいされているのか。具体的な数字はないと思うのだが、私たちが話し合っても、実際の現場は、どのような感じているのかというのを伺いたい。

#### (事務局 佐藤市民部長)

活性化検討会議で、棚卸し・業務の見直しが必要であるというふうになり、モデル事業で実際、ある町会の棚卸しに着手をしたところである。

本来、それに基づいて、各町会にその検証結果をシェアして、自らの取組の参考にしていただきたいということではあるのだが、コロナということもあって、なかなか町会長研修の開催が難しく、シェアまで至っていないところである。

一方で、町会長が「これ大変なんだよね」というので、「大変なら止めてもいいんじゃないですか」という話をすると、「いやいや、やめられないんだ」となります。

やはり、先ほども話があったように、内部から内発的に、これを見直して、これを整理しよう、改革しよう、運営を転換しようというのは、非常に難しいというのは、ここ数年で感じている。

なんらかのルールがあって、そのルールにのって整理することは可能かもしれないが、

一方で町会長たちは、地域のために頑張っているという自負もあるので、それを自らの判断で止めてしまうのは、難しいものがある。

このため、モデル事業として外部の人の意見も取り入れながら、業務の棚卸しのきっかけにしてもらおうとしたのだが、コロナ禍ということもあり、アクティブに各町会とシェアできる状況に至ってないというのが現状である。

#### (丸藤委員)

棚卸しの現場にいたが、実際、模造紙に貼って付箋に書いてもらい、町会長がやっていること、会議、行事など分類して、貼っていったところである。

そうすると、結構、棚卸しできるものが、たくさん出るだろうと思っていたのだが、実際、例えば、町会の中だけの会議であれば、これとこれは似たようなテーマだから一つにできるとか、行事もこれは参加者が少ないからこの行事はなくてもいいみたいなのは無いわけではなかったのだが、ほとんどは、お付き合いの会というか、地区の会議、市全体の会議などで、1町会レベルでは棚卸しをしても、それを元に合理化できないというかスリム化できないようなものが、すごく多いというのがわかったところである。

ただし、棚卸しをしたことで、町会長だけがいろんな会議に出ていることがわかったところである。出ることによってプライドを感じていて、それをなかなか人に任せられないという自己矛盾みたいなものがあるかもしれないが、明らかに会長と、それ以外の人の負担の違いみたいなものが目で分かれると、町会内部から、さすがに会長やりすぎではという話になってきたところである。

やらないよりはやるというのは、すごくささやかかもしれないが、スリム化の効果には、なんらかのプラスの材料になるのかなと思っているところである。

#### (奥平委員長)

他に何かあるか。

#### (酒本委員)

棚卸しに関してだが、札幌市や仙台市でも、同じように棚卸しを行ったが、最後に出てくるのは、行政とのお付き合いの会が多いところである。

縁を切りたいというような話が結構あり、札幌市の町内会の構造というのが、単位町内会があって、連合町内会があるのだが、行政から連合町内会に要請がきて、連合町内会から単位町内会に、会議があるので出てくださいとか、何があるので一緒にやってくださいというのがすごく多く、今、小さな単位町内会で棚卸しを行い、担い手のいない単位町内会は、連合町内会に加盟はするけれど、一切行事には出ませんと割り切った単位町内会があるところである。

また、連合町内会を脱退する単位町内会がすごく増えている。そうすると、単位町内会は、自分たちのコミュニティで行っている行事だけになるので、すごく楽な状況になり、やはり行政も少し考えてもらわないといけないという話が最近出てきている。

これは、札幌市だけでなく他の町も同じような状況だと思う。函館市の町会も少し見直すということになると、行政のデジタル化もそうだが、システムも少し変えていかないと、なかなか町会だけが変わっても難しいのかなと思う。

**(奥平委員長)**

行政と一体となって、変わっていく必要があると、そういうところも考えないといけないことがあると、もしかしたら見えてなかったことなのかなというところである。

本当に今日、時間ギリギリまで、大変白熱した議論することができ感謝する。

今回は、意見を頂戴するというので、総括はしないので、このまま2回目以降に突入するということになる。今日、積み残した議題は、その場で話しができればと思っているところである。

もし何か足りない部分などあれば、事務局の方にご連絡をお願いします。

## 5 その他

**(奥平委員長)**

それでは、その他、みなさまから何かあるか。よろしいか、それでは事務局からお願いする。

**(事務局 兵吾市民・男女共同参画課長)**

委員長からも話があったが、本日、なかなか言いきれなかった部分などあれば、今月いっぱいメールの方で意見等を受けたいと思う。

また、今日さまざまな意見をいただいたので、次回の会議の場で、意見の内容等については、集約して示したいと考えている。

最後に、次回の会議だが、資料3にもあるとおり、8月中旬以降で開催したいと考えている。後日、あらためて日程調整をお願いします。

**(奥平委員長)**

ただいまの連絡事項に対し、何か質問等はあるか。

よろしいか。それでは、これで本日の会議を終了したいと思う。事務局に進行を返す。

## 6 開会

**(事務局 奥ヶ谷主査)**

これをもって、第1回 函館市持続可能な町会運営に関する検討委員会を終了する。